

# 157 のざわまち めおとぎ 野沢町の女男木



指 定 市天然記念物 昭和46年10月1日  
 所在地 野 沢  
 所有者 大 伴 神 社



植物分類上ニレ科ケヤキ属に属するケヤキの大木で、周囲目通り7.2m、根回り9.5m、高さ27.3m、枝張り東西18.2m、南北21.5mに及んでいる。

位置は野沢の中心地にあり、佐久甲州道と根際道との分岐点で、現在も根元に古い道標が建っている。明治44年（1911）村社へ合併遷座される以前は、ここに諏訪神社（古くは十二諏訪社と称した）が祭られており、他にも数本の大ケヤキがあったが、遷座のときに切られた。

女男木として対照になったケヤキは、東南隣地の弁才天社地にあった。両木の間の芽ぶきが、年毎に交互だったので併せて女男木と呼ばれていた。現在、一本だけが御神木として残されている。

昭和63年（1988）3月には大雪のため枝の一部が落下し、路上に張り出した腐食の進んだ枝は同年4月切られ、現在の姿となっている。女男木の樹齢は未詳であるが、野沢郷開発当初、諏訪社勧請以来のものといわれている古樹である。現在、女男木の樹下には市神社が祭られていて、祇園祭礼神輿の町内渡御の御旅所となっている。

参考資料 「千曲の真砂」 瀬下敬忠